ゴング 2000 12/23号

世界進出への試練○○

内田、ロシア王者ザウスに判定敗

ガードをキッチリ固めていた内田はダウンこそなかったが、ザウスの強打にかなりの苦戦を強いられた。

内田に、早くも試練が訪れた。

今回の対戦相手、アフメドフ・ザウスは、ロシア・ムエタイ・ヘビー級王者であり、自他ともにドロズド・グレゴリーに次ぐキックボクサーと認めるロシア第2の選手。

序盤、内田は動きも良くスピードもあって、一気にザウスを攻め込んでいった。しかしザウスは、内田の攻撃が途切れたチャンスに、重いパンチの連打で反撃に出る。2回に入り、内田はパンチとキックを繋いで前に出るものの、ザウスのカウンター狙いに苦戦。接近するとザウスはヒジ、ヒザを振るってくる。この辺りは、さすがにロシア第2のムエタイボクサーといったところだ。3回には、内田はガードを固めてローを攻めるという作戦に切り替えた。このローが思った以上に有効で、4回に入るとザウスは足を引き摺り出した。しかし、ザウスのパンチは依然として重く回転も良いため、内田はじりじりと押され続けてしまう。もっとも、ザウスもパンチは大きなフック系ばかりで、内田の固いガードを打ち破るには至らないのだが……。5回に入り、内田は脚を使って逃げながらロー、ミドルを打っていく。この回に入ると、ガードの上からとはいえ打たれている内田は、疲れとダメージからかボクシングが荒くなっていた。しかしザウスも、チャンスに攻め込むだけのスタミナが無く、試合は判定でザウスの勝利となった。

試合後、「内田は良い選手で思った以上に厳しい試合だった。今後は撃墜道とキック、出来ればK-1などにも参戦したい」と語ったザウス。

しかし敗れたとはいえ、ここ数戦の内田は明らかに大きく成長している。戦況に合わせて的確に作戦を変えて出る「落ち着き」と「判断力」、そして何よりも、以前には無かった「決して諦めない精神力」。今の内田には、たとえ黒星が続いたとしても、強い相手と戦い続けてもらいたい。それは必ず経験となって、内田が世界に通用するヘビー級戦士になる糧となるはずだ。（寺西）

●ヘビー級
ロシア・ムエタイ・ヘビー級王者
○アフメドフ・ザウス
（ロシア／87kg／23歳）
10勝（6KO）1敗1分

判定 0-3

MAヘビー級王者
●内田ノボル
（ビクトリー／184cm／91・6kg／25歳）
8勝（5KO）3敗1分

○中盤以降は、渾身のロー、ミドルを叩き込んでいった内田。ローに顔色を変えたザウスを追い詰めることはできなかった。

■採点表

	小林（ジャッジ）		福富（ジャッジ）		秋谷（ジャッジ）	
	内田	ザウス	内田	ザウス	内田	ザウス
1R	10	10	9	10	9	10
2R	10	10	10	10	10	10
3R	9	10	10	10	10	10
4R	10	10	10	10	10	10
5R	9	10	10	10	9	10
TOTAL	48	50	49	50	48	50

●60kg契約／天野哲成（マイウェイ）【判定3－0】砂田政彦（士道館シカノ）両者譲らずもつれたものの、最終回、天野の右フックで砂田がダウンを奪われ、さらにパンチのラッシュ、右ハイキックと猛攻を受け2度のダウンを喫した。

●51.6kg契約／長瀬悟（習志野）【KO2回・59秒】森岡卓司（武勇会）初回、じっくりと様子を見たMAフライ級王者の森岡。だが2回、一気に距離を詰めた長瀬が回転の早いラッシュでKO。

MILLENNIUM CHAMPION CARNIVAL
マーシャルアーツ日本キックボクシング連盟
10月6日　後楽園ホール

井上、元ラジャダムナン王者をあっさり2RKOに王者の貫禄を見た！

○「他団体のチャンピオン」との対戦を希望している井上。

○今年最後の試合をKO勝ちでしめ括った井上。王者として初の試合で存在感を十分アピールした。

●65kg級契約
MAライト級王者
○井上哲
（山本／170cm／64・6kg／33歳）
11勝（4KO）7敗7分

2回 KO 36秒

元ラジャダムナン・バンタム級王者
●ワンヒンポーチャイワット
（タイ／64・9kg／30歳）
76勝（26KO）29敗7分

今まで東金タローとしてMAのリングに上がっていたワンヒンが、タイ名で登場。気合い十分で試合に臨んだハズだったのだが……。

7月20日の王座決定戦で、中林勇人を下し、念願のライト級タイトルを手に入れた井上。今回のワンヒンは、戴冠初戦としては決して楽な相手ではない。これまでにも、元ラジャダムナンのライト級王者という肩書きはダテではない活躍を見せてきた選手であり、4月には中林を判定で下し、本来ならば井上と王座を争うべきは彼だったと言ってもいい。

試合開始から積極的にローで出た井上は、パンチと合わせて上手く攻撃を上下に散らしていく。一方のワンヒンも、下がりながらも強いミドルで応戦し、時折見せるヒジも巧みだ。ところが井上は、それに怯むことなくワンヒンを攻め込んでいく。

そして2回、ワンヒンが前に出てきたところを迎え撃った井上が、打ち合いに応じ、その左フックがワンヒンのアゴを打ち抜いた。

大の字に倒れ込んだワンヒンはそのまま10カウントを聞き、井上は見事なKOで戴冠初戦を飾ると同時に、チャンピオンの位置を決定的なものとした。（寺西）